

10 び わ

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	施用の目安等
有機質資材 施用技術	<p>○たい肥等有機質資材施用技術 土壌診断に基づき、適切に完熟たい肥等を施用する。</p>	<p>牛ふんたい肥 2～3 t/10a</p>
化学肥料 低減技術	<p>○肥効調節型肥料施用技術 被覆肥料等の利用により肥効率を向上させる。</p> <p>○有機質肥料施用技術 有機質肥料（油かす等）を用いた施肥体系とする。</p>	<p>化学合成窒素量 8.1kg/10a 以内</p>
化学農薬 低減技術	<p>○機械除草技術 除草機械により雑草（畦畔での害虫発生助長植物も含む）を駆除する。</p> <p>○生物農薬利用技術 生物由来の有効成分である農薬の利用により病害虫を駆除する。 ・生物農薬：BT剤(バクテリア類)、ボーベリア ブロンニアティ剤(カビ類)など</p> <p>○光利用技術 色彩粘着板利用による害虫の捕殺や光反射資材利用により害虫を忌避させる。</p> <p>○被覆栽培技術 被覆資材により有害動植物の付着を防止する。 ・袋かけ(ソクイシ類、カラス類等) ・誘殺バンド(ナシメソクイ) など</p> <p>○マルチ栽培技術 被覆植物、稲わら等利用により有害動植物のまん延を防止する。</p>	<p>化学合成農薬成分回数 5成分以内</p>
<p>その他の留意事項</p> <p>有機質資材施用で肥料効果が期待できる時は減肥する。</p> <p>砂壤土で、肥料や石灰質資材の一時期の施用量が多い場合は、分施する。</p> <p>せん定による通光、授光の改善や枯れ枝、病枝を適切に処分する。</p>		